

新年のごあいさつ

青森県身体障害者福祉協会

会長 山 田 金 治

新年あけまして、おめでとうございます。

皆さまには、良いお年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

また、各市町村身障福祉（協）会の皆様には、日頃より県身協及びねむのき会館事業の推進にあたって、御支援・御協力を賜り感謝申し上げます。

昨年は、我われ身障者にとって大きなニュースがありました。それは、昨夏の参議院選挙で重度障害者が当選したことです。その後の活躍も報道され、今後のさらなる飛躍が期待されるところです。

他方、我われが常に頭を痛めている、或いはどうにかしたいと願っているのは、組織の動向（新規会員の獲得）です。既存会員は高齢化し徐々に会員が減り、若い人々は新規に加入してくれない。最近は、個人情報保護法などというものが弊害となり、市町村役場からの情報も得にくい状況となっています。

これらの問題の解決に、一朝一夕に効く妙薬はありません。やはり地道に1件1件、1人1人、会

への入会を訴えていくしかないと思います。SNS、LINEやインターネットがとかく脚光を浴びてありますが、やはりモノをいうのは、人と人の絆です。実際の活動の中で、いかに共感できる事業（活動）ができるかにかかっておりまます。そのため、各市町村身障福祉（協）会では、内部で十分討議を重ね、その地域の情勢にあった方法で活動を展開してもらいたいと思っております。

また、本年は東京オリンピック・パラリンピック大会が開催されます。これを良い契機と捉え、障害（者）への理解の増大を図りたいと思います。

まだまだ、共生社会づくりや心のバリアフリーを青森に根付かせるには、色々な努力が必要となり、年数もかかることと思います。そこは、しっかりと県身協として、全力をケイヂュウ（傾注）して取り組んで参りたいと思います。

終わりになりますが、会員皆様の御健勝と御活躍を祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。

第45回青森県身体障害者福祉大会・三沢大会を開催

令和元年11月10日、三沢市国際交流教育センターにおいて、第45回青森県身体障害者福祉大会・三沢大会を開催しました。県内各地より200名余りの参加がありました。

まず、開催に先立ち、航空自衛隊・北部航空音楽隊による演奏が披露され、会場から大きな拍手が湧き上がっていました。

式典では、長年にわたり障害福祉に貢献された方々、昨年度、福井県で行われた全国障害者スポーツ大会において優秀な成績を残された方々へ知事表彰、会長表彰が授与されました。

その後、大会宣言と大会決議が提案され、満場一致で承認されました。

ご多忙中にも関わらず多くの方にご参加していました



だき、おかげさまで大成功のうちに大会を終了することができました。

来年度は、平川市での開催となります。多くの方々のご参加をお待ちしております。

要望事項

- 「障害の社会モデル」の普及について
- 障害者差別を禁止する条例を県・市町村で制定することについて
- 全県下での障害者団体の活動の充実について
- 全市町村での身体障害者相談員の配置について
- 「ねむのき会館」の早期改築とねむのき会館事業の充実について

県知事要望について

令和元年12月19日、青森県庁を訪問し、山田会長から健康福祉部の有賀玲子部長へ、青森県身体障害者福祉大会・三沢大会において決議された5項目の要望事項を提出し協力を要請しました。

以下、有賀部長から回答をいただきました。

[要望事項に対する回答]

1 県では、障害のある人もない人も共に支え合う中で、その人らしく自立して、安心した生活を送ることができる共生社会を実現するため、平成25年3月に「第3次青森県障害者計画」を策定し、各種の取組を行っています。

具体的には、ラジオや広報紙、ホームページを活用し、「障害の社会モデル」の考え方を広く県民に啓発しているほか、公共的施設等のバリアフリー化や、視覚・聴覚障害者の意思疎通支援等を実施するなど、「社会的障壁」を取り除く取組を今後も継続していきます。

2 県では、「障害者差別解消法」に基づく取組として、障害を理由とする差別の解消が着実に進むよう、職員対応要領の制定、差別解消相談窓口の整備、障害者差別解消支援地域協議会の設置、県民への普及啓発などを行っているところです。

県としては、今後も必要な取組を推進していく方針ですが、条例の制定については、本県における障害者差別を解消するための取組状況等を見極

めつつ、検討していきたいと考えています。

3 市町村身体障害者福祉会の活性化については、引き続き、各団体が考える活性化の方策に対し、県ができる支援について相談していただきたいと考えております。

4 県としては、身体障害者相談員の地域における役割の必要性を十分認識しており、今後も機会を見て、市町村に対しその委嘱や役所内での職員配置の検討をお願いしていきます。

5 ねむのき会館については、建物全体の老朽化が進んでいることから、施設の改修工事等について、来年度設計を行い、令和3年度に実施する方向で財政当局と協議中です。また、これと並行して、将来の施設の機能や整備に係る方向性を検討し、基本構想として取りまとめたいと考えておりますので、貴会におかれましても引き続き、御協力をお願いします。

また、事業の充実については、障害のある方々に対する効果的な事業の実施内容や方法について検討していきたいと考えております。



有賀健康福祉部長と山田会長

「第14回ねむのきアートフェスタ2019」の開催

令和元年11月23日（土曜日）、青森県内の障害者が一堂に集い「第14回ねむのきアートフェスタ2019」が県民福祉プラザで開催されました。

県民ホールではピアノ演奏・歌・ダンス・よさこい等の熱の入った舞台発表があり、大研修室ではねむのき会館文化教室やパソコン教室の作品、当会館利用者の切り絵、版画、津軽塗、ミニねぶた等の作品が展示され、来場者の関心を引いていました。

来年度は、11



作品展示の様子

月開催予定となっております。舞台発表や作品展示に興味のある方は、青森県身体障害者福祉センターねむのき会館（017-738-5033）へお問い合わせください。



舞台発表の様子

心のバリアフリー啓発プログラム研修を受講して

県身協 事務局長 蝦名 良孝

去る10月31日（木）、盛岡市駅前のホテルメトロポリタン盛岡で標記研修が行われ、本県からは県身協副会長の東山さんと私の2名が参加した。参加者総数は40名を超え、その殆んどは岩手県内の市町村福祉協会からの参加であったが、遠くは三重県、広島県、広島市の障害者（福祉）団体連合会からの（実行委員としての）参加もあった。

研修の形式は、模擬体験をしながらのワークショップ形式であった。

最初に、6～7名のグループ分けがなされ、各人自己紹介をし、進行役、書記役、タイムキーパー役をまず決め、グループディスカッションを重ねていくというものであった。また、進行役等の役割は、次の場面では、ぐるぐると交代し、皆が討議に参加しやすいように工夫されていた。

それと、グラウンドルールという皆が守るべきルールが決められ、それは、

- 1 全員が参加、発言する
 - 2 私語は禁止、相手の意見を遮らないで最後まで聞く
 - 3 要点ははっきり、前向きをモットーに参加する
- の3か条がありました。

まず、『心のバリアフリーについて学ぼう』というアニメ動画を13分間視聴しました。障害のある

人にとって、社会の中にあるバリアで、どのような困りごとや痛みがあるのか。またコミュニケーションの大切さや先入観による弊害など、いろいろな気付きをするものでした。

次に、外出先の公共施設や交通機関を利用する時のバリアについて、障害のある人の困りごとを考えました。私たちのグループは、エスカレーターに乗る時、左側に寄って乗らなければいけないことを挙げました。障害により、右側にしか寄れない人の話や、空いた右側を振動音をたてて、歩いていくのはエスカレーターの安全運行からすれば危険だというような話までいろいろな意見がでました。

紙面の都合上、端的に話をまとめますが、障害に対する考え方を、社会モデルの考え方へ変えてみると、自ずと物事の見え方やアプローチの仕方が変わってくるということです。さまざまな心身の特性や考え方の人同士が、先入観や固定観念を捨てて、コミュニケーションをとる、理解を深め合う姿勢が大切だということが（この研修で）分かりました。

この研修は、東北・北海道ブロックでは岩手県を皮切りに行われましたが、私の小難しい話よりも、今後青森県で実施される時に、実際一度経験してみれば、案外すんなり入ってくると思います。是非、ご参加を。

第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」

第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会」が、「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」のスローガンのもと、令和元年10月12日～14日の3日間、笠松運動公園陸上競技場（ひたちなか市）を中心に開催され、青森県選手団は個人競技5競技（選手27名・役員23名）と団体競技2競技を派遣する予定でした。

しかし10月12日に関東地方に令和元年台風第19号が上陸し、記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらしました。その台風の影響で結団式前日の夜に水泳競技、バレーボール競技（身体・精神）の中止が決定し、急遽派遣の中止を決定。陸上・卓球・フライングディスク・ボウリング競技のみで結団式を行い茨城県に向かいましたが、新幹線出発直後にボウリング競技の中止が決定、その後卓球競技

の中止が決定、もう少しで茨城県入りするというタイミングで最後に全日程の中止が大会本部で決定されました。

青森県選手団は茨城県内の指定宿舎に1泊し、新幹線とバスを使い無事全員青森県へ帰ってくることができました。とんぼ返りになってしまった派遣選手団の皆さん、大変お疲れ様でした。

次回の全国障害者スポーツ大会は令和2年10月24日～26日に鹿児島県内で開催される予定です。台風や悪天候が無く、無事に大会が開催されることを願っております。



結団式を終え、茨城県へ向かう青森県選手団

第26回東北・北海道ブロック 身体障害者相談員研修会 に参加して

令和元年11月14日（木）福島県二本松市十万石城下町の光雲閣において、東北・北海道相談員100名が参加し研修会が開催された。

主催者を代表して、東北・北海道ブロック協議会会長の松田英雄氏から挨拶があり、続いて来賓の福島県知事代理の福島県健康福祉部障がい福祉課長の遠藤智子氏から祝辞があった。

続いて講演に入り、厚生労働省社会援護局障害保健福祉課、障害福祉専門官吉野智氏より「障害保健福祉施策の動向と高齢者への対応」共生型サービスについて講演された。

続いて、意見交換に入り進行役に仙台市身体障害者福祉協会長、日身連会長の阿部一彦氏がつとめ、助言者には厚生労働省障害福祉専門官の吉野智氏があたった。

参加者から、高齢者の虐待と高齢者の権利利益の擁護など、虐待のない地域社会の構築を目指して、高齢者を虐待から守ることが重要ではないかなどの質問があった。

また、地元を代表して「さわやかなドライブの概要について」昭和タクシー株式会社代表取締役社長の安斎文彦氏からユーモアを交えた講話があった。

終わりに、次期開催県の青森県身体障害者相談員協議会会長の鶴賀晃から、歓迎のあいさつをして研修会を終了した。

引き続き、参加者一同懇親会に移り、和気あいあいと交流をはかり散会した。

青森県身体障害者相談員協議会
会長 鶴賀 晃



次期開催のあいさつ

日本身体障害者福祉大会 参加の旅(広島)へのご案内

第65回日本身体障害者福祉大会が、令和2年6月3日(水)、4日(木)の日程で広島県広島市において開催されます。

県身協では、2泊3日の日程で「大会参加の旅」を企画しました。

旅行日程詳細や申込書は、1月下旬に各市町村身体障害者福祉会長宛てに送付いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

【旅行期日】 令和2年6月3日(水)～5日(金)

【旅行代金】 お一人様120,000円(予定)※

※大会参加費含む

【募集人数】 10名

【申込方法】 令和2年2月28日(金)までに県身協事務局へ申込書にてお申し込みください。

6/3(水) 青森空港→平和記念公園→原爆ドーム

→平和記念資料館

6/4(木) 大会参加(午前)→宮島→もみじ饅頭工場見学

6/5(金) 大和ミュージアム→てつのくじら館→青森空港

※日程は変更になる場合もあります。

ねむのき冬祭りのお知らせ

障害者及び地域住民の交流、また冬場の運動不足解消を目的として、毎年恒例のねむのき冬祭りを開催します。

日 時	令和2年2月29日(土) 10:30～14:30
場 所	青森県身体障害者福祉センター ねむのき会館「体育館」ほか
内 容	ゲーム、レクリエーション、よさこい (出演:チームこぶし)など

※参加費、昼食(カレーライス)無料

お問い合わせ、参加ご希望の方は、ねむのき会館事務局(017-738-5033)までご連絡ください。

申込書での参加受付となります。

当日は、上履きをご準備ください。

